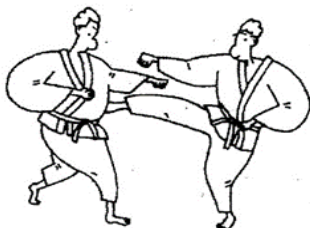


【得点】

●有効 (1ポイント)  
中段・上段突き・打ち



●技有り (2ポイント)  
中段蹴り



●一本 (3ポイント)  
上段蹴り、または倒れている相手への有効技



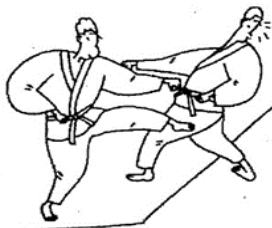
【違反行為】

(カテゴリー1の違反の一部) 当たった度合いによってウォーニングの大きさが変わる



(カテゴリー2の違反の一部)

●場外



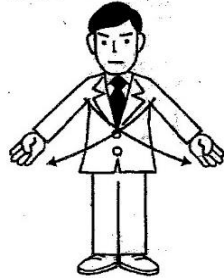
●無防備  
防御の意志がない場合



■勝ち



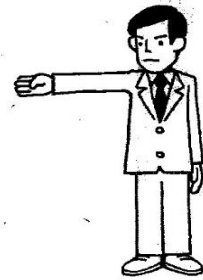
■引き分け  
(団体戦のみ)



■一本



■技有り



■有効



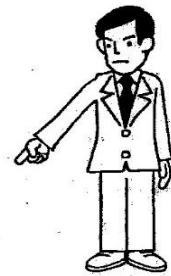
■忠告  
(カテゴリー1)



■忠告  
(カテゴリー2)



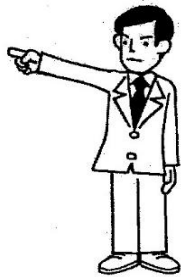
■警告



■反則注意



■反則



■失格



■不活動



●主審の補助動作

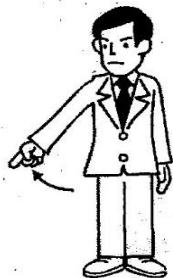
【カテゴリー1】

●危険な行為



【カテゴリー2】

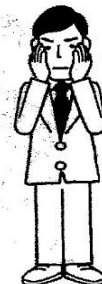
●場外



●無防備



●負傷の偽り、または誇張



【カテゴリー2】

●逃避行為



●押す



●つかむ



●コントロール  
されていない技



●頭突き



●膝当て



●肘打ち

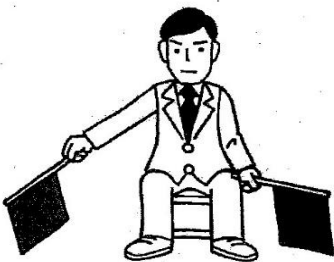


●不必要な発声  
(主審の指示に従わない)

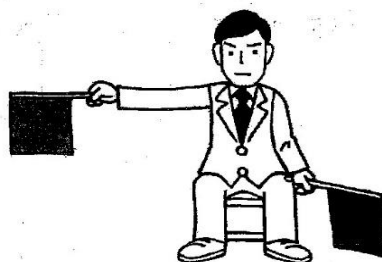


★副審の旗の合図

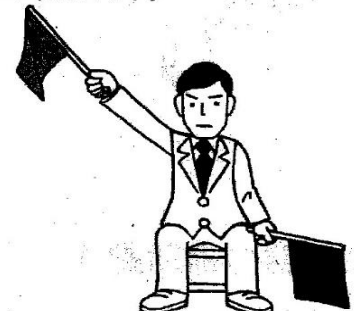
★有効 (1ポイント)



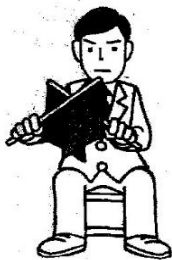
★技有り (2ポイント)



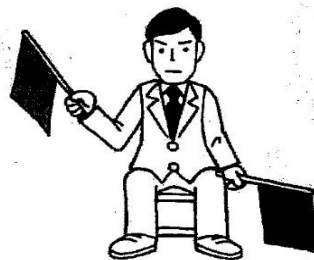
★一本 (3ポイント)



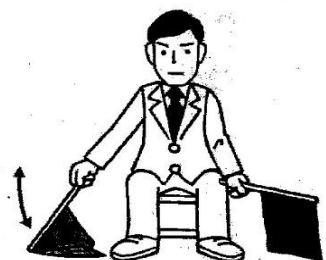
★カテゴリー1の違反



★カテゴリー2の違反



★場外 (床をたたいた後、左の表示)



補助員の皆さんへ

## 1. 補助員の主な仕事（概要）

組手競技において補助員の行うべき仕事は主に以下の4つである。

### （1）選手呼出

- 各競技の開始前に、エントリーされている選手を確認する。
- 試合ごとに選手を呼び出す。

（注）補助員の人数によって進行係と呼出係を別に設ける場合がある。

### （2）計時

- 試合開始から試合終了までをストップウォッチで計測する。  
（注）時間の計測は正確に行わなければならない。
- 試合の進行が停止している場合には、計時を中断し、試合再開時には計時を続行する。
- 試合終了15秒前の時点で、ベルを短く3回鳴らしこれを知らせる。
- 試合終了時には、ベルを長く1回鳴らしこれを知らせる。

### （3）得点表示

- 主審の宣告結果に基づき、先取、先取取り消しの表示を行う。
- 主審の宣告結果に基づき、赤・青の得点（ポイント）、反則（カテゴリー1・2別）の表示を行う。

### （4）試合経過記録

- 試合経過記録は主審の宣言結果に基づき、技、反則、試合結果などを発生順に記録する。

## 2. 運営上の注意

- 補助員の作業は、正しい競技進行の規定や主審・副審の動作の意味を理解しておいて初めて可能になるものである。従って、競技規約を事前に正確に理解しておくことが重要である。
- 適宜休憩をとる、あるいは係を交代するなどの工夫を行うこと。長時間連続して作業を行うと間違える可能性が高くなるので注意する。
- 補助員の業務は、競技そのものを進行・記録する重要な作業なので失敗のないような運営が求められる。
- 大会によっては運営上の制約により運営方法に申し合わせ事項等がある場合もあり得るので、競技開始前には必ずコート主任あるいは主審などに確認作業をする必要がある。
- 円滑な連絡などのために、補助員のなかで連絡窓口となる人物を選定しておくことが望ましい。

## 3. 具体的な補助員作業の一例

### （1）選手呼出の作業例

#### A. 準備作業

- 各競技の開始前に、エントリーされている選手を確認する。
  - 各コート別にプログラムに沿って、選手を赤、青に振り分ける  
（注）コート審判が行うことが多い。
  - 選手がコートにいない場合は、再度呼び出しをする。  
（注）いない選手は放送係に放送での呼び出しを依頼してください。
- 選手をコート外に並ばせる。
  - トーナメント表をもとに、試合順を確認する。  
（注）トーナメント方式の場合、先に小さい山（一回戦）からスタートします。
  - 赤、青に振り分けられた選手を、試合の順番どおりにコート外に並ばせる。  
（注）試合順 = 選手ゼッケン順とは限らない。

特に小さい子供達（小学校低学年など）は、事前に複数の補助員と協力して防具などの準備状況の確認および装着の手伝いをしてあげてください。

#### B. 選手の呼出

- 各試合ごと、当該対戦の選手をそれぞれ「赤〇〇選手」、「青△△選手」と呼び出す。

## (2) 計時の作業例

## A. 準備作業

①計時用の道具について、操作方法を協議前に確認しておく。

- ・スタート、停止、継続、リセットの操作を確認しておく。

(注) 計時用の道具は試合ごとに異なるため。

②ベルなどの道具の操作方法、音量の程度も確認しておく。

## B. 試合開始時

①試合開始前にリセットしておく。

②主審の宣言により試合が開始されると同時に計測を開始する。

## C. 試合中

①主審の宣言により計時を一時停止する必要がある場合には、速やかに計時を一時中断する。

②計測の再開の指示により、速やかに計測を再開する。

③計時の一時中断している間は計時道具（ストップウォッチ）を上に掲げる。

(注) 計測中と中断の差がわかるようにするため。

④試合終了 15 秒前になったら、ベルを短く 3 回鳴らすと同時に、「15 秒前です」と主審に告げる。

(注) ベルが無い場合は「15 秒前です」と告げるだけでよい。

## D. 試合終了時

①ベルを長く 1 回鳴らすと同時に、「時間です」と主審に告げる。

(注) ベルが無い場合は「時間です」と告げるだけでよい。

②主審が試合終了の宣言をしたことを確認し、計測を停止する。

(注) 停止後は速やかに次の試合の準備作業を開始する。

## (3) 得点表示の作業例

## A. 準備作業

①得点表示装置を確認する。

- ・得点表示装置の操作方法を確認する。
- ・ポイント数字の不備や漏れなどのないことを確認する。

(注) 赤、青の得点表示装置のそれぞれに担当者を設置するのが望ましい。

## B. 試合開始時

①各試合の開始直前に、得点表示がすべてクリアーされていることを確認する。

## C. 試合中

①主審の宣言により確定した内容について、速やかにこれを表示する。

- ・赤ないし青の選手に対して技、罰則などが確定したら、これを表示する。
- ・赤ないし青の選手に対して先取が確定したら、これを表示する。

取り消す場合もあるので注意が必要である。

②主審の宣告が確定する前に表示をしてはならない。

## D. 試合終了時

①主審の宣告により試合の勝敗が確定し、試合が終了した後、速やかに得点表示をすべてスタート時点に戻す。

②この際、最終的なポイント数、懲罰内容に関して試合経過記録係に伝え、相互確認を行う。

## (4) 試合経過の作業例

## A. 準備作業

- ①トーナメント表と記録用紙を準備する。
- ②各競技の開始に先立ち、エントリーされている選手とゼッケンを選手呼出係に確認する。
  - ・トーナメント表の誤植やエントリー状況、事前に試合棄権が分かっているかどうかなどの情報交換を行う。
- ③記録用紙に試合の名称（種目名、一回戦、二回戦の区別など）を記入する。

## B. 試合開始時

- ①選手が呼び出されたら、対応する選手名、ゼッケン番号を手元の資料で確認し、記録用紙の対戦番号、対戦者名の欄に記入する。

（注）専用の記録用紙が用意されていない大会では、直接トーナメント表に書き加える場合がある。

## C. 試合中

- ①主審の宣告により選手に技ポイントあるいは懲罰が与えられたらこれを記録用紙に記入する。

## A. ポイント

- ・有効：1ポイント
- ・技あり：2ポイント
- ・一本：3ポイント

## B. カテゴリー1（C1）の反則

- ・忠告：C1W
- ・警告：C1K
- ・反則注意：C1HC
- ・反則：C1H

## C. カテゴリー2（C2）の反則

- ・忠告：C2W
- ・警告：C2K
- ・反則注意：C2HC
- ・反則：C2H

反則の程度によっては「忠告」ではなく、一気に「警告」以上になる場合があります。

## D. 試合終了時

- ①得点表示のポイントとの相互確認を行う。

## 4. その他

※幼児や小学生の試合では選手の取り扱いの注意が必要である。

- ・自分の名前を呼ばれても反応することができない。また、自分の名前ではないのに反応して競技場に出てくる場合がある（同時に二人出てくる場合もある）。
  - 選手を振り分ける場合、最初座らせておいて名前を呼ばれた者を立たせて、これを一人ずつ誘導する等の工夫が有効である（特に幼年）。また、反応がおかしいと感じた場合には当該選手のところに行き、名前を再度確認したり帯名を確認したりの方がよい。
- ・赤や青の用語を理解することができないため、所定と反対の場所で試合開始を待っていることがある。
  - 所定の位置を指示する場合、赤と青の位置に係員を配置して実際にその人に選手を渡すと間違いが少ない。

2019年7月7日  
桜真館さくら道場  
文責：辻本秀治  
以上

## 補助員についての諸注意とお願い

- 補助員は、決して難しいことではありません。
- 初めて補助員をする方・慣れていない人に1人で難しい係をしてもらうことはありません。
- 1つのコートにつき、審判の先生が5名以上、補助員が5名程度つきます。  
審判の先生の指示に従えばよいし、ベテラン補助員の方もいるので心配いりません。  
⇒ 他者とコミュニケーションを大切に、選手達の試合を支える真摯な気持ちをもって行えば、どなたでも円滑に対応できます。
- アリーナで、試合を一番身近で見られる特権！が、あります。
- 保護者会会員でなくても、補助員をお願いすることがあります。
- 保護者会役員は自分ばかり補助員をするのではなく、  
試合ごとに補助員の割り当てを考え、皆さんにお願いしている立場です。  
試合出場者が少なく限られると、同じ方にはばかりお願いすることになってしまいます。
- 保護者会資料にもありましたとおり、今年度も多くの補助員要請があります。  
そこで、今後はローテーションを組んで順番に割り当てさせていただきたいと考えています。  
(順番については保護者会に一任していただくことを前提とします)
- お友達どうして同じ大会で補助員をやりたい・日程的に都合の良い大会がある等  
ご事情のある方は、本日より立候補を受け付けます。  
立候補がない場合は、いつでも受けてくださるという意志表示と認識しますので  
ご了承いただきますようお願いいたします。
- 割り当て決定後の補助員交代は、各自の責任において行なってください。  
(例：育成会の旗振りやラジオ体操の当番)  
交代した場合は必ず保護者会役員にお知らせくださいますようお願いいたします。
- 選手、監督、審判、補助員、多くの協力のもと試合が成り立ち、行われています。  
わが子もたくさんの人にお世話になりながら試合に出ているのです。  
皆さんも誰かのお子さんのためにお力を貸して、働いてあげてください。  
お互いさまの精神で、どうぞよろしくお願いいたします。